

◆ 平成 30 年度 活 動 報 告 シ ー ト ◆

団体名：山ノ神沼を守る会

21A-37

代表者：会長 杉崎隆男

URL :

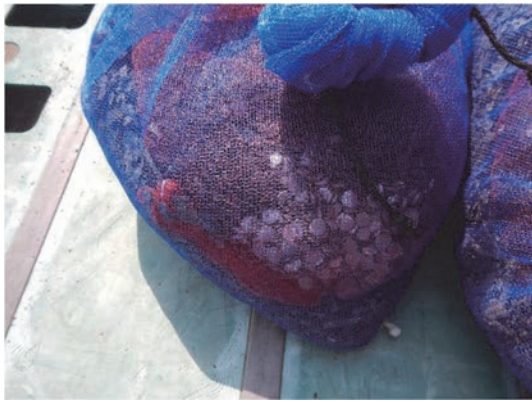
1. 活動が必要とされた状況

山ノ神沼は、近隣の宅地化の進展に伴う生活排水等の流入により水質が悪化し、沼にアオコが発生するなど、水環境を改善することが急務となっている。平成 30 年度は透明度を高めることは、鉄デバイスによる藻類の生成繁茂がある。鉄デバイスは、鉄と炭素材を接触させ、その周囲に腐葉土を配置したものである。

例えば、汚濁して透明度の低い湖沼に、鉄デバイスを設置したとろ、藻が生成繁茂し、水の透明度が著しく向上した。

2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

山ノ神沼の西岸付近に鉄デバイスを 60 個設置(沼の西部、岸辺付近約 18m×18m。2m 間隔で鉄デバイスを沼底に設置する。)(30 年 10 月 21 日写真；下)



3. 活動の成果

「山ノ神沼を守る会」の総会(6 月 10 日、蓮田市議会議員、石井県会議員ほか 23 名出席)で、サイサン環境保全基金の助成と会員の努力で成果の挙げたことを報告しました。



蓮田北小学校における水質浄化授業

4. 今後に残された課題

山ノ神沼の本質的な水質浄化をめざして、小島昭博士(前橋総合技術ビジネス専門学校校長)のご指導の下、新機能炭素繊維システムを新たに構築することが今後に残された課題である。